

製品名: p38 ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe21421**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ICC/IF,ELISA,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG,Kappa
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.3mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、50%グリセロール、0.05%プロクリン 300、0.05%保護タンパク質
精製	プロテイン A

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,IP 1:50-1:200
分子量	Calculated MW:41kD;Observed MW:41kD

抗原情報

遺伝子名	MAPK14
別名	Mitogen-activated protein kinase 14;MAP kinase 14;MAPK 14;Cytokine suppressive anti-inflammatory drug-binding protein;CSAID-binding protein;CSBP;MAP kinase MXI2;MAX-interacting protein 2;Mitogen-activated protein kinase p38 alpha;MAP kinase p38 alpha;Stress-activated protein kinase 2a;SAPK2a;
遺伝子 ID	1432.0
SwissProt ID	Q16539
免疫原	標的タンパク質に対応する合成ペプチド

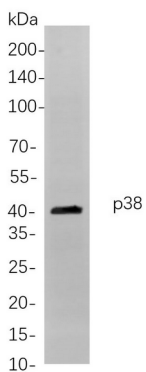
背景

細胞局在：細胞質、核。この遺伝子によってコードされるタンパク質は MAP キナーゼファミリーのメンバーである。MAP キナーゼは複数の生化学的シグナルの統合点として機能し、増殖、分化、転写調節、発達など、様々な細胞プロセスに関与する。このキナーゼは、様々な環境ストレスや炎症性サイトカインによって活性化される。活性化には、MAP キナーゼキナーゼ (MKK) によるリン酸化、あるいは MAP3K7IP1/TAB1 タンパク質とこのキナーゼとの相互作用によって引き起こされる自己リン酸化が必要である。このキナーゼの基質には、転写調節因子 ATF2、MEF2C、MAX、細胞周期調節因子 CDC25B、腫瘍抑制因子 p53 などがあり、このキナーゼがストレス関連の転写および細胞周期調節、ならびに遺伝毒性ストレス応答において役割を果たしていることが示唆されている。この遺伝子には、d をコードする 4 つの選択的スプライシング転写バリエーションが存在する。

研究分野

-

画像データ



p38 ウサギ mAb を用いた HeLa 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。抗体の検出には HRP 標識ヤギ抗ウサギ IgG 抗体を用いた。